

父母連ニュース号外

～草加市長選挙政策アンケート特集号～

草加市保育園父母会連合会 機関紙
2009年度 号外/2009年7月17日発行
発行責任者 高山 943-2616
阿部 927-2356

7/26(日)は、今後の草加市政を左右する重要な「草加市長選挙」が行われます。父母連は、各候補者に以下のアンケートを実施し、保育政策についてのお考えを伺いました。各候補者による御回答を以下に掲載いたしますので(父母連ホームページにも掲載予定)、是非市長選の参考になさってください。

草加市保育園父母連による市長選挙政策アンケートの質問項目

1 待機児童の対策について

草加市の保育園待機児童は毎年 300 人以上と増えてきましたが、昨年度の世界的な金融危機以降、さらに保育ニーズが高まっています。現在の保育園の総定員(公立 19 園・民間認可園 4 園)は 2198 人ですが、草加市次世代育成支援行動計画は平成 21 年度の保育需要を 3200 人と推計しており、保育園の整備は喫緊の課題です。このような現状に対し、草加市は現在「家庭保育室整備計画(素案)」を打ち出しています。これは 2015(平成 27)年度までに家庭保育室を 40 室程度増やししながら、段階的に公立保育園から 0 歳児保育を廃止し、家庭保育室へと移行する計画です。しかし、保育園待機児童の内訳をみると、0 歳児・1 歳児の数が最も多いのが実態です(平成 21 年 3 月 1 日現在、0 歳児待機児数:154 人、1 歳児待機児数:96 人)。今後さらに 0 歳児・1 歳児の待機児童数が増えていくことが予想されるこのような状況下において、公立保育園から 0 歳児保育を廃止することが適切かどうか、貴候補はいかがお考えでしょうか。また今年度 6 月には市立あずま保育園が新園舎へと引っ越しを行い、現在は旧園舎が使用されていない状況です。このような施設を待機児童対策として利用していくことについてはいかがお考えでしょうか。貴候補の待機児童対策を教えてください。

2 草加市の保育料、延長保育料の徴収について

私たちが毎年行っているアンケート調査では、保護者の実現要望項目の第一位は毎年「保育料の引き下げ」となっています。現在の保育料表では、最高月額が 76000 円となっており、近隣自治体と比較しても高い設定となっております。また延長保育を実施している園において延長保育を希望する家庭には、月額 3000 円を上限とした延長保育料が課せられています。これらの市民負担のあり方について、貴候補のお考えを教えてください。

3 保育園における完全給食の実施について

現在草加市の保育園では、3 才児クラスから 5 才児クラスにおいては給食に主食が提供されず、子どもたちは毎日家庭から主食を持参しています。近年の働き方の多様化や様々な家庭の事情により、毎朝主食を用意し、子どもに持たせることが負担となっている家庭も少なくありません。近隣においては 3 才児クラス以上であっても主食を提供している自治体もあります。食育の観点からも、安全衛生の観点からも主食提供の実現のねがいは大変大きいものがあります。貴候補のお考えを教えてください。

4 厚生労働省・社会保障審議会少子化対策特別部会「第 1 次報告(案)」について

厚生労働省・社会保障審議会少子化対策特別部会は 2008 年 12 月 9 日に「第 1 次報告(案)＝新制度案」をとりまとめました。この新制度案では、従来の自治体による入園の措置制度に代わり、利用者が直接、園と契約をする直接契約制度や、従来の「応能負担」からサービスの利用実績による「応益負担」へと保育料徴収の方法も変わるとされています。現在のように所得の低い世帯や、保育に欠ける世帯に対する保育が十分保障されず、児童福祉法第 24 条の定めるところの「市町村の保育義務」不履行となるおそれもあると私たちは危惧しています。この新制度も含め、今後の保育政策のあり方について貴候補のお考えを教えてください。

5 その他、貴候補の子育て政策についてご自由にご記述ください

市長候補者(押切氏・木下氏・福田氏)によるアンケートへの御回答

押切 康彦 氏

1 待機児童の対策について

小学校の空き教室、市の施設などを活用して、地域の子育て世代の方に、安心して仕事と、子育てが両立できるような仕組みをつくりまします。

2 草加市の保育料、延長保育料の徴収について

子育て世代の保育料を、軽減出来るよう見直しの努力をいたします。

3 保育園における完全給食の実施について

食育は、子供達の成長に一番大切な問題です。皆さんのお声に耳を傾けてまいります。

4 厚生労働省・社会保障審議会少子化対策特別部会「第1次報告(案)」について

草加市の子供達は草加の宝です。所得の格差に関係なく、誰もが平等に、保育が成されるような保育政策を致します。

5 その他、貴候補の子育て政策についてご自由にご記述ください

私のマニフェストに掲げてあるように、子育て支援は、私の、重要政策のひとつです。草加市の子供達が平等に、保育、教育が成されるように、私の生涯をかけて最大限努力致します。

※皆様方と共に、語り合い、建設的な意見交換が出来ますよう頑張っております。

木下 博信 氏

1 待機児童の対策について

・基本認識

これまで通り、民間保育園の誘致と公立保育園の立て替え時の増員で対応をして参ります。

・理由

国の制度が変わったことで、公立の保育園は、建設も運営も全て市民の皆さんの税でまかなわなければならなくなりましたが、私立保育園については建設、運営ともに国からの補助金を得ることが出来ます。つまり、より少ない市民負担で、より多くの子供達を受け入れていくことが可能となる訳です。

財政的に厳しい環境の中で、様々な行政課題に対応して行かなくてはならないのが現状です。保育園のみが子育て支援ではありません。児童クラブもあります。幼稚園の就園奨励もあります。医療費無料化への支援もあります。

こうした現在の環境を踏まえると、民間による認可保育園の誘致、推進を図って受け入れ可能人数を増やしていくことが最も効果的であると考えます。

・補足

家庭保育室を充実させて0歳児の受け入れ可能枠を拡大していくのが、現在の方針です。一方で、その充実が図られる前に、公立保育園の0歳児クラスを閉鎖していくことは予定されていません。

待機児がいるのに公立の0歳児クラスを順次廃止していく計画だと指摘する人はいますが、そういう計画も検討も存在していません。

2 草加市の保育料、延長保育料の徴収について

・基本認識

現在の負担のあり方は、概ね適正であると考えています。

・理由

保育園児1人あたり、年間約120万円の予算が必要になります(建設費除く)。保育料を下げるということは、更にこの金額に上乗せして、他の市民の皆さんにご負担を願わなければなりません。財政的に余裕があり、ほぼ市民の皆さんのニーズには応えられている状況であれば、それも可能かもしれません。しかし、そうした現状にはなく、市民の皆さんのご理解を頂ける状況には無いと認識しています。

さらに、最高額をもって近隣自治体より高いと指摘をされておりますが、その最高額を負担されている方は、ごく少数です。4年前保育料を改定したときは、値上げではなく適正化として行いましたので、高額所得の方を値上げさせていただき、経済的にご負担が厳しい方の保育料を下げさせていただいております。

ぜひ、最高額に着目するだけでなく、所得層ごとに十分比較いただければ有り難く存じます。

・補足

アンケートで要望の1位が保育料の引き下げであることは、気持ちとしては十分に理解が出来ます。税や利用料が安い方が望ましいと感じる方が異常だとは思いません。

保育サービスの質とそれに対する負担が適正か、そして、それぞれの所得状況と負担が適切かどうか再検討頂たく存じます。

そこに明確な不都合があれば、市としても検討していくことになると思います。

3 保育園における完全給食の実施について

・基本認識

現状の給食を維持して参りたいと考えています。

・理由

お子さんを保育園に預けなければならないのは、子供の責任ではなく、私たち大人の責任です。であるならば、その子供に保護者として、今日も楽しく過ごしてきてね、という愛情と感謝を込めてご飯（パン）を用意することは無理なことなのでしょうか？それが負担であるという表現に寂しさを感じます。

そして、その実現に向けても新たな市民負担が生じます。

・補足

「食育の観点からも」とありますが、主食を園で出すことと食育の関連が明確ではありません。

衛生的にもとありますが、これまで大きな事故があったとは聞いておりません。また、成人で家庭からの弁当持参者も増えてきている社会状況になってはいますが、その際衛生的な観点から、ご飯は職場で炊くべきであるという社会認識は存在しないと感じています。

4 厚生労働省・社会保障審議会少子化対策特別部会「第1次報告（案）」について

・基本認識

現場がわからない机上の議論であると感じています。

・理由

全ての子供達を受け入れ可能な状況であれば、直接契約ということも考えられないこともありません。現状がそこに至らず、入園審査を行っている現実の中で、どのように考えても直接契約方式は実施不可能です。

また、応益負担も同様です。保育に欠ける児童への福祉施策として存在している部分において、応益負担化することに正当性があるとは理解できません。

5 その他、貴候補の子育て政策についてご自由にご記述ください

その重要性を認識しているからこそ、子供未来部として、子育て関係を総合的に推進していく体制を整備させていただきました。このまちで、子供達が目を輝かせ、生き活きと育っていけるよう、必要な取り組みを進めていきます。

大人の都合ではなく、子供たちに真に必要なことを精査して推進して参ります。

福田 誠一 氏

1 待機児童の対策について

みなさんの多くが、公立保育園にお子さまを預けていただいているご父母であることと存じます。そして、自分たちのお子さまが既に公立保育園に入園されているにも関わらず多くの待機児童が公立保育園に入園できない実情について、切実な思いで活動を続けてこられたことに敬意を表したいと思います。

私はすでに自分の政策リーフレットでも掲げているように、待機児童ゼロを目指します。そしてその目標は、様々な施策を組み合わせることによって達成したいと考えています。

私も草加市が公立保育園から0歳児を手放して、家庭保育室に委ねていく方針は聞き及んでおり、一定の理解をしているつもりです。

もちろん、すべての待機児童が公立保育園に入れるようになることがみなさんの活動の原点であることでしょう。しかし、保育環境の多様性に即戦力を持って対応していくには草加市が直営で行う公立保育園だけでは、コストの意味が

らだけでなく、不可能なのではないかと率直に感じております。

例えば障がいを持つ児童を安心して預けられる環境を求めて、私自身が、ダウン症を持つ私自身の子どものために、NPOを立ち上げて、独自の保育園を運営しています。

切実なニーズを持つ人々が、その切実な思いで提供する事業には、自ずと深い愛情や心が宿るものであり、これはコスト意識とは対極にある大きな価値観なのではないでしょうか。すべての保育士が公務員という立場で働く公立保育園は、確かに身分が補償され、待遇も不景気の今となっては、とても厚遇されているようにも感じられます。自然と優秀な人材も集まり、父母にとっても公立であるというだけで、何か安心感があるでしょう。

しかし、私のNPOで働く職員にも、同様の能力があり、十分な待遇はして上げられていないかもしれませんが、保育にかける情熱や、特に障がい児の保育にかける責任感と使命感は公立保育園の保育士に負けてはいません。

つまり、私は公立だから良くて、民間だから悪いという考えは持ってはいないのです。

草加市が打ち出している0歳児を家庭保育室に委ねていくという方針については、私は単なるコスト面でこのことが議論されているような印象を持っていますから、このままで公立保育園が一方的に0歳児を手放すことには反対です。家庭保育室には家庭保育室の良さがあります。より家庭的な雰囲気の中で話しかけると一生懸命、お話しをしようとする家庭保育室で保育されている0歳児の笑顔が忘れられません。

家庭保育室に対して、草加市が草加市の方針として0歳児を委ねていくのであれば、家庭保育室に対しても、一定の補助制度を確立すべきだと考えます。

私が目指す待機児童ゼロ実現のシナリオは、まず子どもたちの目線から、税金の投下額の格差を埋めていくことから始まります。公立保育園に入れば、多くの税金からの援助が与えられるけれども、民間認可保育園、家庭保育室、認可外保育室に入ると税金からの援助が極端に低減してしまうのは、公正平等な社会とは言えないのです。その上で、多様な保育ニーズにピンポイントで対応していける、草加市独自の保育環境を市役所、NPO、家庭保育室、事業者が力を合わせて築いていきたいと考えています。

2 草加市の保育料、延長保育料の徴収について

適正な受益者負担はお願いしなければならないものと考えていますが、近隣市の実情よりも高い水準にはならないような配慮は必要です。前項でも回答させていただいたとおり、公立保育園に入園できた児童だけが様々なサービスを集中的に受けられることは公正平等の観点からは問題がありますので、草加市保育園父母会連合会のみなさまにも十分にご理解をいただきながら、対話を続けさせていただきたいと考えています。

3 保育園における完全給食の実施について

調理室の設置義務の有無が保育園と幼稚園の大きな違いのひとつです。主食の提供も可能であるか確認する必要があると思います。可能であれば、応分のご負担はいただくことになるとは思いますが、検討していくべきと考えています。

4 厚生労働省・社会保障審議会少子化対策特別部会「第1次報告(案)」について

基本的に今回の報告案の中に示されているご指摘の部分については、各保育園の経営の問題と児童の親に対する支援の問題を切り分けて捉えていこうとするものとの印象があります。つまり、子どもたちを保育園に預けることについて必要なコストは応益負担として平準化していくことを基本的な考え方として推し進め、従来の応能負担の原則はそれぞれの家庭事情や経済事情に応じて、別枠で財政支援していくという考えなのではないかと思われます。私としてもこの国の動きには引き続き、注意を向けていかなければならないと強く感じており、みなさんとの対話を通じて、制度の将来あるべき姿を十分に詰めていきたいと思っております。国や県に対しても、早い段階から情報提供をお願いし、必要な要望活動も積極的に展開していきたいと考えています。

5 その他、貴候補の子育て政策についてご自由にご記述ください

市民目線で市政をチェンジ。これが私のスローガンです。しかし、もっとこれを具体的に申し上げると、何事も子どもの目線で考えることが大事だと思うのです。不景気で親が失業したり、片親が病に倒れたり、離婚によって家庭環境が変われば、その家庭で保護されるべき子どもたちが最も大きな被害者になることに、私は目を向けていきたいのです。社会や親である大人たちの事情や環境の変化は、どんなものであれ、子どもたちには不可抗力の出来事なわけです。その時、社会がそんな子どもたちにとってのセーフティネットであり続けることができるようなまちに、私は市政をチェンジしたいと考えています。

**7/26(日)は草加市長選挙です。みんなで選挙に行こう！
私たち市民の声を草加市政に反映させましょう！**